【社会】　＜小学校　第６学年＞

１　結果のポイント

○「日本の歴史」について、「古墳時代」「奈良時代」「平安時代～鎌倉時代」「室町時代～戦国時代」「江戸時代」「明治時代」についての用語やその用語の意味の理解、資料から読み取る力をみる問題の正答率は７５％を上回っているものが多い。

●他方、それぞれの時代の様子や社会の変化を考える力をみる問題の正答率は６０％を下回っているものがある。

○「古墳時代」の社会の様子を地図上の分布から読み取る問題の正答率は７５％を上回っている。

●他方、「平安時代」「鎌倉時代」の政治の中心地について、地図を活用してその位置の理解をみる問題の正答率は５０％程度である。

○「黒船の来航」「明治維新」「文明開化」について、ペリーの日本来航の目的や、「富国強兵」の用語の理解をみる問題の正答率はいずれも８５％程度である。また、江戸時代と比べて、明治時代に文明開化によって新しく生まれたものや変わったものを資料から読み取り、その変化を適切に表現する力をみる問題の正答率は８０％程度である。

２　結果の分析

（１）「知識・理解」の力をみる問題の例

＜問題＞　1の１　　3の１

1　１　新聞の中に書かれている古墳とは，どのようなものなのでしょう。**ア**～**エ**の中から一つ選び，その記号を［　　］の中に書きましょう。

ア　豪族が食料をたくわえる倉庫　　**イ**　豪族が住む家

ウ　豪族が死んだのちに，ほうむるお墓　　**エ**　豪族が戦いのときに使うとりで

3　次の資料を読んで，１～３の問いに答えましょう。

この世をば　わが世とぞ思ふ（う）　もち月の　かけたることも　なしと思へ（え）ば

この歌は，藤原道長（ふじわらのみちなが）がよんだものです。この時代は，藤原氏を中心とする［　①　］が大きな力をもっていました。このころの［　①　］は寝殿造（しんでんづくり）とよばれる大きなやしきでくらし，和歌や音楽を楽しみ，さまざまな季節の行事を行っていました。そうしたくらしの中から，それまでとはちがった新しい文化が生まれました。

１　上の資料の［　①　］にあてはまることばを**ア～エ**から一つ選び，その記号を［　　］の中に書きましょう。

ア　武士　　**イ**　貴族　　**ウ**　豪族　　**エ**　僧

＜結果＞　1の１　正答率　９６．８％（正答…**ウ**）3の１　正答率　７５．１％（正答…**イ**）

＜分析＞

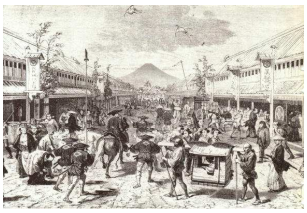
1の１は、「古墳という言葉とそれが何のためにつくられたか理解しているか」をみる問題である。正答率は９６．８％と高く、3の１「貴族という言葉とその生活の理解」、6の２「明治の諸改革とその内容の理解」についての問題の正答率も７５％以上であることから、用語とその用語の意味の理解はできていると考えられる。

他方、4の１①、②「織田信長、徳川家康の行ったことの理解」をみる問題は、正答率が６０％程度であり、無解答もみられることから、人物とその業績についての理解はやや弱いといえる。人物に対する興味・関心を高め、人物の働きや業績を確実に理解できるような指導や、各武将の中から武将を選択し、個々に調べて発表するだけの学習ではなく、発表を基に３武将の業績が、確実に理解できるような指導の工夫が必要である。

3の２は、「政治の中心地の地図上の位置についての理解」をみる問題である。誤答では、奈良、鎌倉を選択する解答が多かった。歴史学習においても、各時代の政治の中心地や主要な地名などの位置について、地図帳を積極的に活用し、確実な定着を図るようにする必要がある。

（２）「観察・資料活用・表現」の力をみる問題の例

＜問題＞　6の４　　4の４



6 4　文明開化で人々のくらしや町のようすが江戸時代と比べて大きく変わりました。下の資料をみて，ちがいを具体的に一つあげて，ようすの変化を［　　］の中に説明しましょう。

4 4　織田信長，豊臣秀吉，徳川家康の三人の武将による全国統一のようすはのちに，「織田がつき　羽柴（豊臣）がこねし　天下もち　すわりしままに食うは徳川」のような歌によまれました。３人は，全国の統一に，それぞれどんな役割を果たしたのでしょうか。

あなたが最も関心をもった人を一人選び，その人の名前を［　①　］の中に，その人物が果たした役割を［　②　］の中に書きましょう。

＜結果＞　6の４　正答率　７８．６％（正答…略）4の４　正答率　４３．４％（正答…略）

＜分析＞

6の４は、「資料から明治になって新しくなったものや変わったものなどについて読み取り、表現する力」をみる問題であるが、正答率は昨年度の類似問題より高くなった。

1の２「古墳を築いている様子を示す絵資料から、当時の社会の様子を読み取る」問題、1の３「古墳の分布図から分布の特徴を読み取る」問題についても正答率は７５％以上であり、資料から事実を読み取る力は身に付いている。今後も資料の読み取りにおいては、何に着目するのか、資料と資料を比べる観点（「古い資料から新しい資料をみる」、「人々の様子をみる」など）を明確にして、より一層、具体的、系統的に指導する必要がある。

4の４は、「信長、秀吉、家康の３人の武将が、全国統一にどのような役割を果たしたかという課題に対して考え、自分の言葉で表現する力」をみる問題である。無解答や武将名だけを記述するという解答が多くみられた。３人の武将の業績と全国統一に果たした役割との関連を考えて表現する力は十分身に付いていない。問題文の意味や内容が十分に理解できなかった児童や、どのように解答すればよいのかが分からなかった児童がいたことも考えられる。今後は、多様な資料を活用して課題について調べ、考えをまとめる学習や、テーマを設定して自分の考えを記述したり、キーワードを使ってまとめ、表現したりするなどの多様な指導の充実が必要である。

（３）「思考・判断」の力をみる問題の例

＜問題＞　2の１　　2の３

2　ひろ子さんは，聖徳太子，聖武天皇，中大兄皇子，卑弥呼がそれぞれ活躍したころの学習をして，Ａ～Ｄのようなカードにまとめました。これをみて，１～３の問題に答えましょう。

Ａ　仏教をさかんにするために，国ごとに国分寺を建てることを命じた。また，金色の大仏をつくることにした。	Ｂ　うらないをして，人々をひきつける「ふしぎな力」をもっていた。３０ほどの国をしたがえたとされている。
Ｃ　２０才で摂政になった。中国の文化や政治の仕組みを取り入れるために，小野妹子たちを使者として送った。	Ｄ　力をほこっていた豪族を倒し 土地や農民を国のものとし，農民は国の土地を耕し，国に税を納めるという制度をつくった。

１　これらのカードの中には，「天皇中心の国づくりをめざした政治」と関係のないカードが１枚あります。それはどのカードですか。ア～エの中から一つ選び，その記号を［　　］の中に書きましょう。

ア　Ａのカード　　イ　Ｂのカード　　ウ　Ｃのカード　　エ　Ｄのカード

３　ひろ子さんは，カードを時代の古い順にならべました。下の［③］に入るカードはＡ～Ｄのどのカードですか。そのカードをア～エの中から一つ選び，その記号を［　　］の中に書きましょう。

古い　①　→　②　→　③　→　④　新しい

ア　Ａのカード　　イ　Ｂのカード
ウ　Ｃのカード　　エ　Ｄのカード

＜結果＞　2の１　正答率　５１．２％（正答…**イ**）2の３　正答率　２８．６％（正答…**エ**）

＜分析＞

2の１は、「各時代がどのような特色をもっているかを歴史の大きな流れの中で考える力」をみる問題である。2の３は、「社会の様子や変化などを手がかりに時代の大きな流れを考える力」をみる問題である。各時代の特色の理解とともに、歴史の流れの中での位置付けを考える力が十分身に付いていないと考えられる。人物の業績を具体的に調べるとともに、その時代の中で、人物が果たした役割を考え、仲間と話し合う中で理解を深めるような指導や、年表を活用して時代の流れの中で歴史的事象のもつ意味を把握できるよう指導する必要がある。

３．分析を踏まえた指導の改善

（１）指導計画の工夫改善

基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るという観点から、指導内容が地域や児童の実態を踏まえ吟味、精選されているか見直しを図る。

・事例や対象を選択する必要があるものについて、児童や地域の実態、指導時数等を考慮して適切に選択されているか見直しを図る。例えば、人物を扱う学習では、近現代の人物の扱いを見直し（小学校指導要領　解説　社会編Ｐ 96 ～ 98 参照）、その時代の概要をつかめるように指導する。また、人物にかかわる事象を確実に理解し、その人物が、時代の中で果たした役割について考えることができるようにするなど、身に付けた学び方が他の事例に転化できるようにする。

・各領域の指導内容や指導時間に偏りが生じることのないよう改善を図る。特に江戸時代以降の学習の理解が十分なされるように指導計画、指導内容の見直しを図る。

・年間指導計画に観察や調査・見学、体験などを確実に位置付け、それらの活動の目的を明確にして実施する。例えば、他教科や総合的な学習の時間等との関連を考慮し、資料の読み取りなど学んだことの活用や、地図や分布図を用いた学習ができるようにしたり、調査・見学において地図を活用する学習を心がけ、有効性・有用性に気付かせたりする。

（２）指導方法の工夫改善

問題解決的な学習の充実を図ることで、課題に対して様々な資料等を活用して調べ考えたことをまとめ、表現する学習を行うように努める。

・調べたことを発表するだけでなく、調べたことや自分の考えをまとめ、目的に応じた方法で表現する力、社会的事象の意味について考える力を育てるよう努める。例えば、資料活用の技能を段階を踏まえて具体化し、児童にその技能が確実に身に付くように、基本的な資料、年表などを活用し、着目する視点や資料と資料を比べる観点を明確にして指導する。

・児童に表現する力を付けるために、例えば、学習したことを根拠にテーマを設定して討論会を行い、自分の考えを述べる機会を充実させたり、課題について多様な資料を用いて調べ、考えをまとめる学習や､キーワードを使ってまとめ表現したりするなどの多様な指導ができるようにする。

・個の学習状況の把握と分析に基づき、授業において個の様相を予想し、個に応じた指導・援助を具体的にして指導に当たるとともに、評価規準や個人カルテ等を活用し、確かな学力が身に付くよう適切に指導し、評価問題などを実施することで、確実に見届けるようにする。

（３）学習環境の工夫、学習集団の育成等

・学習環境の工夫について､我が国の代表的な遺跡や文化財などの観察・調査などの学習において、実感をもって事実をとらえることができるよう、博物館や郷土資料館等の活用を図り、実物や具体物を活用できるようにする。

・学習環境の工夫について、人物が活躍した時代を年表を用いて確かめたり、学んだ地名を地図帳を用いて確かめたりするなど、年表や地図帳を毎時間の授業に位置付け、十分に活用する。

・学習集団の育成について、仲間とともに交流し、互いのよさを認め合い考えを学び合う活動を位置付け、一人一人の調べ方や社会的なものの見方、考え方のよさを価値付けることで、学び合う集団を育成する。